

１．「(仮称)道の駅まるこ」の位置づけ

(１)「(仮称)道の駅まるこ」基本構想策定の背景

本市は上信越自動車道や国道 18 号など広域的な幹線道路が通り、北陸新幹線上田駅を有するなど、東信地域の中核都市として周辺都市を接続する交通の要衝となっています。都市部から山間部にかけては塩田平の田園風景をはじめとする自然資源や上田城跡や信濃国分寺史跡などの歴史・文化資源が多く残っています。また、別所温泉や丸子温泉郷などを含めたさまざまな観光地が各地域に広がっています。

特に近年はワインツーリズムが注目されており、丸子地域の東部に広がる約 30ha のワイン用ぶどう畑には、シャトーメルシャン椀子ワイナリーがあり、ワールドベストヴィンヤード において令和 2、3 年度にそれぞれ 30 位、33 位と国内で唯一ランクインし、アジア No 1 のワイナリーとして世界のワインファンの目に留まることになりました。

世界中のワインツーリズムで行くべきワイナリーを 50 位までランキングしたもの

また、椀子ワイナリーを含む東信エリアを中心とする“千曲川ワインバレー”(長野県のワインバレー構想)では 50 軒を超えるワイナリーが醸造をしており、高品質な日本ワインの産地として、注目度を上げています。

一方、丸子地域の西部を通る国道 254 号は県土の中央部を東西に横断し、物流や交流はもとより当市の西口玄関として地域振興と観光面の一端を担い、日常の交通量が多く、さらには災害時の「緊急輸送路」の指定を受けるなど、極めて重要な路線です。この状況下で県は、通過交通が引き起こす騒音対策や交通事故抑止に向けて集落を迂回するバイパス整備を順次進めています。一方、令和 2 年の三才山トンネル無料化により、料金所とともに、トイレ等休憩施設も廃止となりました。このことから、道路の休憩施設に加えて、地域振興や地域活性化を目的とした施設を併せ持つ「道の駅」整備を検討し、この度基本構想案を作成しました。

<「道の駅」検討の背景>

- 通過交通が引き起こす交通事故抑止に向けた休息施設の整備については、地元沿道住民で組織した「東内西内地区の安心安全環境を守る会」から、地域住民の総意として県と市に要望されています。また、災害時の指定避難所施設の利用が廃止されたことから、安心安全な地域づくりが課題となっています。
- 三才山トンネルの料金所が廃止されたため、三才山峠において、事故・降雪等により通行規制が発生した場合の迅速な情報発信機能の整備が課題となっています。
- 地元で採れた新鮮野菜や丸子温泉郷などで加工・商品化している特産品を提供するため、移動する人が通過することなく、滞留時間を創出し、地域内循環の促進や人と人との交流の活性化につながることが必要です。
- 世界のワインツーリズムで注目されているワイナリーがあり、その周辺にも多くのマイクロワイナリーがある千曲川ワインバレーのコンシェルジュ的機能を備えることで、来訪者の満足感と市内のシビックプライドの醸成につながります。

(２)上位計画における位置づけ

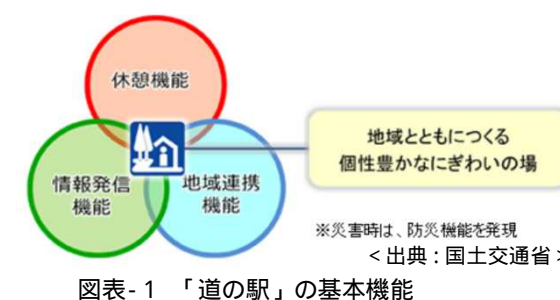
第二次上田市総合計画後期まちづくり計画(令和 3 年度～7 年度)において国道 254 号が通過する丸子地域の発展の方向性は、以下のようになっています。

- ・自然環境や美しい景観を保全しながら依田川、内村川周辺に親水空間を創出し、地域資源の有効活用を進めます。
- ・職住近接の生活空間創出や健幸都市実現を目指し、日常生活や観光・流通のための道路整備を進めます。
- ・丸子温泉郷や信州国際音楽村、椀子ワイナリー、あさつゆ等の観光・文化資源を効果的に連携させながら、地域内外の交流を促進します。

２．「道の駅」の概要

<「道の駅」の基本機能>

「道の駅」は、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、「道の駅」をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」の 3 つの基本機能を併せ持ちます。近年では、災害に備えた防災拠点としての役割を果たすための「防災機能」も求められています。



図表-1 「道の駅」の基本機能

３．上田市・丸子地域の現状

本市や丸子地域の現状と課題を以下のとおり整理しました。

項目	現状	課題
人口	■ 丸子地域は人口減少が顕著な地域 (H27.10 から R3.10 の人口増減率-6.8%)	■ 人口減少・長寿社会への対応
土地利用	■ 山林や農地が多く、丸子地域の用途地域指定区域内は主に住宅用地・公共施設用地	■ 自然環境の保全や低未利用地の有効活用
産業	■ 製造業が主要産業	■ 地域経済を牽引する製造業の支援
農業	■ 丸子地域の総農家数は 15%減少 (H27 と H22 を比較)	■ 野菜や花き等の産地化・ブランド化の加速
商圈	■ 丸子地域の地元滞留率及び吸引力係数ともに減少(H30 と H27 を比較)	■ 地域経済の維持
公共施設	■ 丸子地域には、庁舎等 19 施設、教育関連施設等 10 施設、保育施設等 10 施設、小中学校 6 施設、体育施設等 16 施設が立地	■ 地域課題に対応した公共施設等の配置
交通	■ 三才山トンネル無料化直前と無料化 1 ヶ月半後の 24 時間交通量は、平日で 1.28 倍、休日で 1.84 倍増加 ■ 丸子地域内の公共交通はバスのみ	■ 道路利用者への休憩機会の提供による地域の交通安全対策の充実 ■ 道路ネットワークの活用 ■ バス路線の利便性の維持による高齢化社会への対応
自然	■ 丸子地域は丸子平野と独鈷山や唐沢山、渋田見山等の山々で形成	■ 豊かな自然環境等の活用
景観	■ 本市全域が景観計画区域に指定されており、多様な景観資源に恵まれている	■ 美しい景観の維持・活用
歴史・文化	■ 鹿教湯温泉、大塩温泉、霊泉寺温泉の三つの温泉からなる丸子温泉郷がある	■ 歴史資源の維持・保存・活用 ■ 地域の歴史の次世代への継承
観光	■ 丸子地域の代表的な観光地は、鹿教湯温泉・信州国際音楽村・「シャトー・メルシャン椀子ワイナリー」	■ 観光を基軸とした賑わいの創出 ■ ワインツーリズムの振興 ■ 市内に数多く点在する多様な観光資源の活用 ■ 地域のアイデンティティを形成する温泉地としての魅力の向上
防災	■ 国道 254 号沿道は土砂災害警戒区域(土石流、急傾斜、地すべり)が多く点在し災害リスクが高く、近年では令和元年東日本台風等による被害が甚大であった	■ 地域の自然災害対策の充実 ■ 道路利用者の安全性の確保 ■ 浸水や急傾斜地崩壊等の災害による地域分断の可能性への対応
住民ニーズ	■ 「地域の課題や不安」について西内地区では「通院や日常の買い物が不便」、東内地区では「高齢者の増加等」の回答率が高い	■ まちの賑わい・交流の創出 ■ 地域の災害対策の充実 ■ バリアフリー化等の促進 ■ 道路休憩機能の確保

複合的な課題

豊かな自然、悠久の歴史、多様な観光資源等の特性を活用し、まちの賑わい創出に繋がる交流人口の拡大を図る。

買い物等の利便性やバス交通の維持・向上等により、良好な生活環境を形成し、定住人口の増加を図る。

道路休憩施設の機能を活用して道路利用者に優良な農産物や観光資源の魅力を提供し、地域経済の好循環を図る。

道路利用者への市内及び丸子地域の魅力を発信し、本市及び丸子地域を来訪する方やリピーターの獲得を図る。

地域住民や増加する国道 254 号利用者を対象とした避難空間の形成により、地域の防災機能の向上を図る。

４．基本的な方針

(１)「(仮称)道の駅まるこ」の基本理念

本市及び丸子地域における課題の整理結果を踏まえ、「(仮称)道の駅まるこ」の基本理念を以下のように定めました。

「(仮称)道の駅まるこ」の基本理念

道の駅は、道路休憩機能と地域振興機能を併せ持つ施設として、全国に数多く整備され地域の観光や生活の拠点等として、住民や道路利用者等多くの利用者が訪れ、賑わいの創出等、地域課題の解消に寄与しています。

本市及び丸子地域における課題を踏まえ、増加する国道 254 号の道路利用者に対して、道路休憩機能を提供し、合わせて、地域の魅力・サービス・情報を提供することにより、

- ・交流人口の拡大
- ・定住人口の増加
- ・地域経済の好循環
- ・本市や丸子地域のリピーターの獲得
- ・地域の防災力の向上 等

地域の様々な課題の解消に向け国道 2 5 4 号沿道へ「道の駅」を計画します。

(２)「(仮称)道の駅まるこ」のコンセプト

基本理念を踏まえ、「(仮称)道の駅まるこ」のコンセプトを以下のように定めました。

「(仮称)道の駅まるこ」のコンセプト

上田のソムリエ、道の駅まるこ



丸子地域の河川 内村川の水面へ山々が映り込んだ様子をイメージ

- 本市の『ウエストゲート』(千曲川ワインバレー東区の『ウエストゲート』、中京圏(松本方面)から訪れる観光客にとっての『ウエストゲート』)として、本市及び周辺自治体の観光や防災を「手助けする」道の駅
- 今後の丸子地域の「道先案内人」として、デジタル化を推進した地域全体を牽引する道の駅
- 丸子地域住民・事業者と観光客の『win-win の関係』を新たに構築する「立役者」として活気のある(稼げる)道の駅
- 災害対応力を向上させる「丸子地域の防災空間」としての役割を担う道の駅
- 来訪者に丸子地域で過ごす時間を充実させ、「満足感を味わってもらえる場を提供する」道の駅

< ロゴについて >



- M 1 道の駅
- M 2 まるこ地域の新たな観光スポット
- M 3 Move (新たな移動拠点)
- M 4 松本市との連携(上田と松本を結ぶ路線上の結節点としての役割)
- M 5 Monetization (稼げる道の駅)



- W 1 WEST GATE (千曲川ワインバレーと中京圏からのゲート)
- W 2 WINE (ワインの銘醸地上田)
- W 3 Wellness (豊かな人生をデザインする手助けとなる)
- W 4 Win-win (地域住民・事業者と観光客)
- W 5 World (世界に通じるワイナリーへ、インバウンド活性化)

５．導入機能・施設規模の検討

(１)導入機能

コンセプト及び、サウンディング型市場調査で得られた意見を基に、以下の機能の導入を検討していきます(今後の検討により変更となる可能性があります)。

図表-2 導入検討機能一覧

機 能	施 設	施設概要	イメージ写真
休憩施設	駐車場・トイレ	24 時間利用可能、通過交通量から算出する基準数量を整備	
	子育て施設	24 時間利用可能、授乳室・ベビーコーナー等	
情報発信機能	情報提供施設	通行規制等の交通情報や観光情報を発信	
地域振興機能	特産販売所	観光客向け特産品に加えて、地域住民の日用品も取り扱う	
	農林水産物直売所	観光客に対する地元農産物の PR のほか、朝採れ野菜等の新鮮な食材を提供	
	農林水産物加工場	地元食材等を加工し、加工品や新たな地域ブランド品の企画・開発を目指す	
	飲食施設	産直野菜等を堪能できる場、また地域住民同士のコミュニケーションの拠点	
	温浴施設	丸子温泉郷(鹿教湯・大塩・霊泉寺)との連携	
	ワインバー	ワインの提供を行い、ワインの銘醸地としての上田を広げる	
	屋内スペース	通常時の多目的コミュニティスペース、災害時の避難場所としての活用	
	仮眠施設	長距離ドライバー等の休憩施設としての機能を整備	
防災機能	屋外交流広場	通常時の屋外レクリエーション施設、災害時の防災広場としての活用	
	備蓄倉庫	災害時の道路利用者や地域住民等の避難者への緊急物資を保管する倉庫	
	自家発電機	災害時の避難施設としての機能を確保するための電力供給施設	
その他	ヘリポート	防災ヘリポート、通常時は屋外交流広場の一部として活用	
	バスターミナル	路線バス・長距離バスの発着所として利便性及び集客性の向上につなげる	
	EV 自動車用充電器	将来の自動車電動化への対応	
	公衆無線 LAN の整備	地域振興施設に一般利用者可能なもの	

(２)導入機能の規模

「道の駅」の登録要件として国が定める設備(24 時間利用可能な駐車場、トイレ)は下表の規模で整備を検討しています(現段階における想定であり、今後の検討により変更となる可能性があります)。

図表-3 導入機能の規模

施設名	詳細	道路休憩施設	地域振興施設	合計
駐車場	小型車	32 台	63 台	95 台
	大型車	14 台	4 台	18 台
	身障者用	1 台	1 台	2 台
トイレ	男子用(小)	4 器	3 器	7 器
	男子用(大)	4 器	2 器	6 器
	女子用	12 器	12 器	24 器
	多機能	1 器	—	1 器
	子供用コーナー	2 器	2 器	4 器

子供用コーナーは男女各 1 箇所

6. 建設候補地の選定について

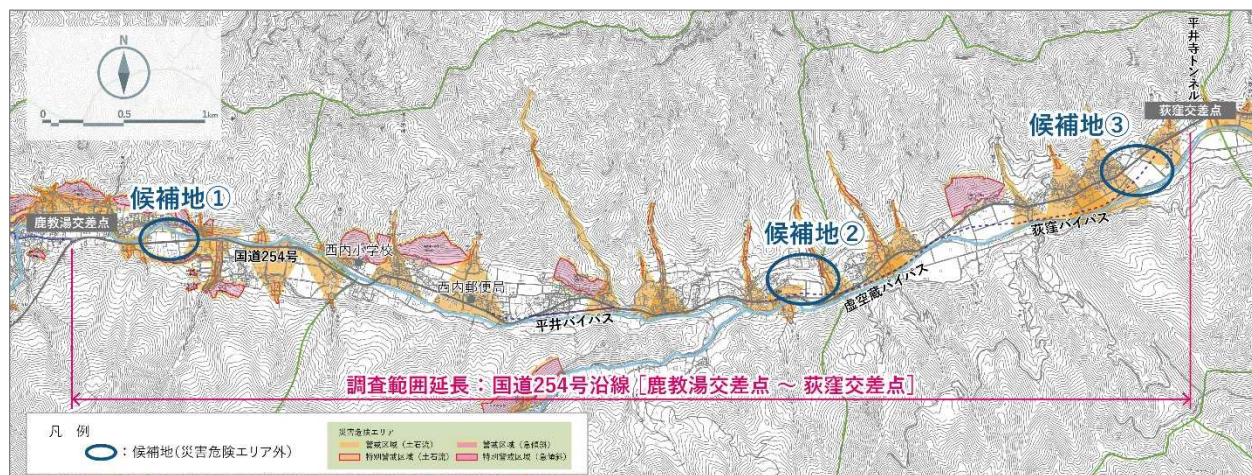
(1) 選定方法

国道 254 号の荻窪交差点から鹿教湯交差点までの区間を対象として、「道の駅」の適地選定を行います。選定のフローは右のとおりです。「道の駅」の適地は、「敷地面積」、「災害危険エリア外」、「地域住民の意向」を満たした候補地について、敷地形状やアクセス性等の観点から総合的に評価し、選定します。

条件	敷地面積
	1.5ha(15,000 m ²)以上の敷地を確保できる
条件	災害危険エリア外
	土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域のエリア外に位置
条件	地域住民の意向
	地元自治会（西内自治会・平井自治会・荻窪自治会）の意向を反映

(2) 候補地の概要

「敷地面積」、「災害危険エリア外」、「地域住民の意向」を満たす候補地の位置図を以下に示します。



図表-4 候補地位置図

(3) 「道の駅」適地の評価

3箇所の候補地について、総合的に評価を行いました。その結果、候補地 を適地として選定しました。

図表-5 候補地比較表

	候補地	候補地	候補地
候補地区	西内地区	平井地区	東内地区
面積	約 20,000 m ²	約 21,000 m ²	約 20,000 m ²
現況土地利用	田/畑/その他自然地/公益施設用地	田	田
集客性（接道状況/道路からの視認性）	○	○	
生活利便性（バス停からの距離/騒音）			
周辺施設・環境との連携（最寄りの温泉からの距離/周辺景観の広がり/日照）	○	○	○
安心・安全（災害危険エリア/浸水想定区域/指定緊急避難所からの距離）	○	○	
法規制状況（農業振興地域/都市計画区域）			
敷地形状（高低差/整形・不整形/支障物の有無）			○
盛土・切土量			
前面道路整備状況			
情報発信基地としての立地条件			
総合評価	○		

7. 配置計画

決定した候補地における道路休憩施設、地域振興施設(屋内、屋外)、駐車場の配置計画案を以下に示します。

図表-6 ゾーニング案



図表-7 候補地 航空写真



道路休憩施設ゾーン	地域振興ゾーン[屋内]			地域振興ゾーン[屋外]	駐車場ゾーン
トイレ	トイレ	温浴施設	供用部	屋外交流広場	小型車駐車場
休憩施設・情報提供施設	特産販売所	ワインバー	附帯施設	EV 自動車用充電器	大型車駐車場
子育て支援機能	農林水産物直売所	屋内スペース	外構		身障者用駐車場
外構	農林水産物加工場	仮眠施設			二輪車用駐車場
附帯施設	飲食施設	備蓄倉庫			維持管理・運営者駐車場

8. 整備手法・管理運営形態

(1) 整備手法

「(仮称)道の駅まるこ」は整備候補地に接する国道 254 号（整備が進められているバイパスを含む）の管理者である長野県と上田市が「一体型」の道の駅として整備を行います。

整備手法の分類	概要
単独型	市町村の意向を反映した整備を行うことができるが、用地取得や「道の駅」への出入口を設置するための道路改良に至る全ての費用を負担する必要がある
一体型	市町村と道路管理者それぞれの役割分担に即した費用負担を行うこととなり、整備費用の低減が図られ、道路交通関連情報の提供や発信などの効果も期待できる

(2) 管理・運営手法（事業手法）

想定される管理・運営手法（事業手法）の特徴を以下に示します。

事業手法	概要
直営	行政職員が直接的に管理運営を行う
業務委託	行政が直営で行う業務を、業務毎に民間企業等に委託して管理運営を行う
指定管理者制度	地方自治法に基づき、公の施設に対し、地方公共団体から指定を受けた指定管理者（民間企業等）が維持管理・運営を包括的に実施する
D B O	民間事業者が施設の設計、建設、維持管理、運営業務を一括で包括的に実施し、施設の所有、資金調達は公共が実施する
P F I (B T O)	民間事業者が施設の設計、建設、維持管理、運営業務及び資金調達について、民間事業者のノウハウを活用して包括的に実施する

